

江戸崎総合高等学校の震災被害状況

江戸崎総合高等学校 教諭 松本 現、藤曲 和摩

1. 当日の学校の状況

地震発生時は1年次は産業社会と人間，2，3年次は「総合的な学習の時間」の授業中で各教室で各担任が授業を行っていた。そのため，特別教室棟や体育館等には生徒はいなかった。

2. 地震発生時の様子

担任を持つ2年4組でCAと共に「総合的な学習の時間」の授業を行っていた。初め緩やかな横揺れを感じたが，すぐに収まるものと思い落ち着くように指示をした。しかし，なかなか揺れが収まらず，次第に強くなってきたため，全員机の中に隠れるよう指示をした。強い揺れにより，机とその下に隠れている生徒が左右に振られた。廊下側と窓側の生徒にはガラスにも気をつけるように指示をした。私とCAの先生は隠れるところもなく，生徒の様子を見ながら教卓等につかまりながら生徒を見守った。頭上の黒板を照らす蛍光灯が激しく揺れていた。揺れている中，前庭を確認すると，他クラスの生徒と担任が避難を始めていたが，取り敢えず揺れが一旦収まるまでは机の中に隠れているように指示をした。揺れが一旦収まった後，廊下に整列させ，防災訓練通りに前庭に避難をした。各クラス担任が授業を行っていたせいか，全クラスがスムーズに前庭に避難し全校生徒が整列していた。（藤曲）

地震発生時，自分は4階職員室に一人でいた。あまりに揺れが長いので，様子を見に1階へ下りたが，なお揺れが続いており，今までにない不安を覚えた。揺れは収まるどころか，次第に激しくなり，気がついたときには柱に捕まっていなくて立っていられない程であった。目の前の縦走廊下（2階部分）が見たことがないくらい縦に波打っているのが衝撃的であった。特に，校舎との接合部はほとんど繋がっていない様に見え，まるで自由端のようであった。また，校舎全体は，捕まっていた柱同様に上下へ激しく振動し，地面の揺れをここまで体感した経験は初めてであった。危機感を感じ，1年次生の避難を指示するために急いで4階へ駆け上がった。4階では職員数名が廊下で待機しており，生徒は教室内の机下に潜っていた。前庭へ避難の指示後，順次生徒を誘導した。前庭に避難した後，再び大きな揺れが襲い，国旗や県旗のポール（全長約12m）が定常波の腹の様に大きく振動していた。（松本）

3. 地震発生後の対応

生徒を前庭に整列させたまま，次の指示を待っていたが，その間も何度か余震が続き，学校の窓ガラスが何度も音を立てて揺れた。しばらくの間そのまま待機したあと，今後の動きについて管理職から説明があった。教室の貴重品を生徒に取らせるために各担任が引率して学年ごとに時間差で生徒を校内に戻し荷物を取らせ，その後再び前庭で待機，生徒に保護者への連絡をさせた。保護者送迎やスクールバスで生徒を帰宅させたが，連絡のつかないものや待機が必要な生徒は一箇所にとめて待機させた。

4. 校内の被害状況

- ①普通教室 壁掛け時計が全て落ちた。壁やベランダに亀裂が多数入った。
- ②音楽室 楽器や楽譜を収納している棚が数十cm移動した。
- ③物理準備室，化学室等 棚が開き，様々な実験器具等が落下した。
- ④渡り廊下 棟との連結部で特に損傷が多く，壁一面に亀裂が生じた。
- ⑤体育館 天井のパネルがズレたり，めくれたりした。特にステージの天井のパネルが落ちたりするなど，最も被害が大きかった。

5. 当日の学校周辺の状況

停電や断水は無く通常どおりに利用することができた。市内では屋根瓦の落下やブロック塀の崩壊がいたるところで見られた。



物理準備室



化学室



物理室



2F 連絡通路 接合部



連絡通路壁



体育館ステージ



体育館ステージ天井

6. 地震後，学校再開まで

地震後は3月17日（木）まで休校となる。18日（金）に各年次で集会を行い。21日（月）終業式を行い，春休みに入った。

7. 今回の地震について反省，改善すべき点等

幸い地震による怪我などの人的な被害はなかったが，学校において落下による物品の故障が多く見られた。普段から地震を予測し，高所に重いものを置かないなど，物品の管理が必要だと思われる。